

成田市教育委員会会議定例会会議録【会議概要】

平成26年9月成田市教育委員会会議定例会

期日 平成26年9月19日(水) 開会：午後3時 閉会：午後5時5分

会場 成田市役所5階503会議室

出席委員

| | | | |
|-----|--------|----------|--------|
| 委員長 | 秋山 皓一 | 委員長職務代理者 | 小川 新太郎 |
| 委員 | 高木 久美子 | 委員 | 福田 理絵 |
| 教育長 | 関川 義雄 | | |

出席職員

| | | | |
|---------------|------------|-----------|-------|
| 教育長 | 関川 義雄 (再掲) | | |
| 教育総務部長 | 深山 芳文 | 生涯学習部長 | 藤崎 祐司 |
| 教育総務課長 | 伊藤 和信 | 学校施設課長 | 藤崎 宏行 |
| 学務課長 | 柳 鶴 暁 | 教育指導課長 | 大竹 誠司 |
| 学校給食センター所長 | 後藤 文郎 | 生涯学習課長 | 秋山 雅和 |
| 生涯スポーツ課長 | 大矢 知良 | 公民館長 | 木川 義夫 |
| 図書館長 | 須賀澤 賢治 | 生涯学習課課長補佐 | 木内 悦夫 |
| 教育総務課課長補佐(書記) | 加瀬林 操 | | |

【会議概要】

1. 委員長開会宣言

2. 教育長報告

主催事業等

○8月28日 ふれあいコンサートについて

第40回を記念し、成田山新勝寺雅楽部を大会議室に招き、市制施行60周年記念事業として実施した。この雅楽部の歴史は大変古く、江戸時代には雅楽形態を整えており、関西や江戸から楽師を招き雅楽の稽古を行い、法要や出開帳等の折に奏楽していたとのこと。大会議室が

満員になるほどのお客様がお見えになり、江戸時代の人々も聴いたであろう音色に、当時の人々の暮らしに思いを馳せるひと時となった。

○9月1日 北総教育事務所人事ヒアリングについて

年度末定期人事異動に向けた、県教委の人事担当者による第1回目のヒアリングである。これは、管理職人事に関するもので市の意向を聞き取ることを目的としている。成田市では今年度末に、6名の校長と1名の教頭が定年退職を迎える。また、来年度は8名の校長と1名の教頭、さらに翌年度は10名の校長と1名の教頭がそれぞれ定年退職となり、この3年間で24名の校長と3名の教頭が代わることになる。管理職の世代交代が確実に進むわけで、次世代を担う人材の育成については、教員の指導力向上と共にリーダー養成もまた重要な課題である。教育委員会としてどのように人材育成を進めるか、具体策を示していけるようにしていきたい。

○9月6日 成田市立中学校体育祭について

成田中学校と玉造中学校の2校の体育祭に出席。何れの学校も生徒達の強い思いが感じられる良い体育祭であったと思う。昨年、ある学校で気になった「腰パン」といわれる、わざとパンツを下げている生徒はほとんど見られず、今年は昨年の反省を基にしっかり努力しているのだと感心させられた。この後の9月13日の中学校体育祭も含め、委員の皆様の中で、もしご覧になられた方がいらっしゃれば後ほど感想をお聞きしたい。

○9月6日 生涯学習講演会について

市役所6階大会議室にて、250名の参加者を前に、元TBSアナウンサーの榎井論平氏を招き講演会が開かれた。榎井氏は、1970年代、TBSラジオの深夜放送「バックインミュージック」に登場し、一躍人気DJとして伝説的存在となった方。また、その後はアナウンスセンター専任部長として多くのアナウンサーを育てた方である。この日の講演内容としては、

「人生を楽しく前向きに生きるコツ!」と題して、話すことの大切さ4つを語られた。まず、「声を出す」こと。いい声は周りを明るくする。声が弾んでいると明るくなる。声はやる気のバロメーターだということをお話された。二つ目は「いい挨拶」。挨拶は心を開いて相手にせまるもの。「おはようございます」は、「は」をしっかり言うこと。三つ目は「いい会話」。人が会話をするのは人生を幸せにするため。世間話をいかに楽しくできるかが大切。人間は誰でも面白いということ。四つ目は「笑顔で一言」。人の笑顔は素晴らしい。人間にしかできないものなど聞く人の心をひきつけて、途中で発音の訓練を入れるなど、飽きさせない工夫がいっぱいで、楽しいひと時であった。

○9月12日 生涯学習推進協議会について

今年度第1回目の生涯学習推進協議会を開催した。内容は、第2次生涯学習推進計画と第2次生涯スポーツマスタープランの進捗状況について説明するとともに、このことについての意

見聴取、文化芸術振興に関する市民意識調査結果及び文化振興マスタープラン骨子案の説明と意見聴取であった。それぞれの進捗状況の説明に対し、委員からは様々な意見が出されたが、その中でも特に数値目標について、その数値が増えた、減ったということで評価するだけでは不十分ではないか。それよりも様々な行事に参加された方々の満足度を調査すべきで、少しでも満足度を上げられるように改善すべきといった意見や、数値よりも中身だとの意見が出され、なるほどと思う場面があった。今回は当初2時間の会議の予定が、多くの方々から意見が出されたこともあり、時間を超過して意見聴取を行うこととなり、この協議会の本来果たすべき役割ができたかなと思う。今後は出された意見を参考に、さらに改善を加えていけるよう努めたい。

○9月13日 成田市立中学校体育祭及び下総みどり学園体育祭について

下総みどり学園では、小中一貫教育校になって初めての体育祭だった。昨年までは4つの小学校がそれぞれ単独で小規模な運動会を行っていて、それはそれで地域の特色が出てよかったのだが、「子どもの教育」と言う観点からは、ある程度の規模があった方が教育的な効果は高いし、見応えもある。特に応援合戦にはその成果が表れていた。中学生の力強さが感じられ、小学生にはある種の感動が生まれたのではないだろうか。私は初めの1時間しかその場にいられなかったのですが、詳しくは伝えられないが、一部の保護者の話によると、おおむね好評だったようである。

○9月13日 図書館開館30周年記念文学講座について

諏訪中央病院の名誉院長であり作家でもある鎌田實先生を図書館にお招きして、文学講座を開催した。著名な先生のお話が聴けるということで、今回も前評判が高く、参加予約を受け付けて1日でキャンセル待ちになるほどの盛況ぶりであった。当日はそのキャンセル待ちの方々が並び、やきもきしていたが、何とか全員、会場である視聴覚ホールに入ることができた。私は都合で初めの挨拶だけ出席したが、講座が始まる前のわずかな時間に先生とお話する機会を得た。先生は図書館でお願いした、先生の著書へのサインなど、気軽に応じていただき、それも実に丁寧に心を込めて書いておられる姿を見て本当に感動した。委員さんの中にはこの文学講座に参加された方もいらっしゃるのですが、後ほどご感想を頂ければと思う。

○9月15日 はつらつママさんバレーボール in 成田について

成田市体育館に、かつての日本女子バレーボールチームの代表選手であった方々11名と大古誠司元バレーボール男子日本代表、金メダリストをお招きし、ママさんバレーボールのバレーボール教室と、成田市代表チームとのフレンドリーマッチを行った。元代表で、年齢的にはすでに40代、50代の方、そして、まだ記憶に新しい、大山加奈さんや杉山祥子さん、佐々木みきさんなどで編成するドリームチームとバレーボールが出来るとあって、会場は熱気に包

まれた。往年の名選手は、今でも少しの衰えも見せないほどの素晴らしい技術を発揮して、市内のママさんチームは全く歯が立たなかったが、ドリームチームの少しも手を抜かない真剣なプレーぶりに本当に感激した。真剣だから面白いし勉強になる。参加された方々には一生の思い出になったことと思うし、今後のママさんバレーボールの技術向上につながるものと思う。

○9月15日 第22回成田市小学生相撲大会について

ママさんバレーボールと同日に開催した小学生相撲大会、今年で22回目となった。昨年はいにくの台風で中止となった経緯があり、今年こそはと言う思いで参加した子もいたことと思う。成田市相撲連盟の方々の熱意で何とか開催しているが、低学年はともかく高学年、特に6年生に至っては、参加者がわずかに3名で、果たしてこれで成田市の大会と言えるのかといった状況であった。相撲は国技であり、何とか普及させたいという関係者の思いとは裏腹に、子どもたちには、決して人気があるスポーツとは言えない状況である。参加する学校も限られており、加良部小学校、成田小学校、新山小学校のみの団体戦。個人戦でも、これらの学校に吾妻小の何人かが加わった程度である。このままではいずれ消滅してしまう。今後の在り方について検討し、存続させるには、何か具体策を講じていかなければならないと感じた。

○9月16, 17, 18日 北総教育事務所長・次長学校訪問について

は16日に神宮寺小学校、平成小学校、17日に中台小学校、新山小学校、それぞれの北総教育事務所長訪問に同席した。所長の羽山氏は南房総教育事務所次長から北総教育事務所長になられた方で、出身は中学校教員だとのことで、穏やかな口調ではあるが、学校や学級の運営について、こうあるべきとの強い思いを持った方と拝見した。これまでの所長さんからはあまり指導を受けることのなかった細かな内容まで踏み込んで助言する姿勢がうかがえた。若い教員が多くなって、指導力の低下がいわれるが、実は、指導力はあまり年齢に関係なく、指導者自身の人間性や生まれ持った資質によるものも大きく、それが育つ環境で磨かれるか否か、そうした状況が大きく関係するのように感じる。即ち学校が若い職員を育てられる環境にあるか否かである。北総教育事務所長や次長、あるいは管理課の訪問がこの後11月まで続くが、どの学校も前向きにとらえて、学校全体の力を高めるきっかけにしていなければ幸いである。

○9月17日 第3回成田スポーツフェスティバル実行委員会について

10月11日(土)に実施予定の第3回スポーツフェスティバルの実行委員会を開催した。9月17日現在、本大会参加予定者は延べ2,427名で、昨年を724名上回るとのこと。市民運動会からこの形式に変更された直後は参加者が激減したが、昨年そして今年と、参加者が増えつつある。本大会の趣旨が少しずつ浸透してきたのではないか。市民が気軽にスポーツに親しみ、自ら運動することの楽しさを味わい、日常生活にこれを取り入れられるようになると健康な生活が送れるようにもなる。実施種目の中の8の字跳びには37チームが参加すると

のことだが、大人も子どもも関係なく、同一レベルで競える種目として大変良い種目だと思う。綱引きや玉入れは市民運動会から引き続く伝統種目であり、これはこれで地域の力を結集して取り組める良さはあるが、市民運動会からスポーツフェスティバルとした本来の狙いに沿った改善は、今後もしっかりと検討していく必要があると思っている。

2. 市議会

○8月29日～9月18日 平成26年9月成田市議会定例会について

秋山委員長の教育委員の任期満了に伴い、後任の教育委員として今議会に提案されていた件については全会一致で議決され、来月より佐藤勲氏が新たな委員として着任されることになった。秋山委員長におかれては、大栄町から成田市に合併された平成18年の10月から2期、8年にわたりご活躍をいただいた。特に、昨年度からは印教連会長として印旛郡市教育委員のリーダーとしても大変なご尽力を頂いた。この場をお借りし、改めて感謝申し上げたい。なお、今議会に提案された議案は、全て全会一致もしくは賛成多数で可決された。

○9月10日 教育民生常任委員会について

今回は12の議案と所管事務調査として10件の報告があり、長時間の審議となった。教育委員会関係では、「成田市スポーツ広場の設置及び管理に関する条例の一部改正」、「公津の杜小学校学校給食調理場及び児童ホーム増築工事」に関する、建築工事、機械設備工事の請負契約の変更について、吾妻小学校西棟大規模改造工事建築工事の請負契約の変更について、また、公津の杜小学校学校給食共同調理場に配置する厨房機器の市有財産の取得についてを議題とし、審議していただいた。その結果、全ての議案が全会一致もしくは賛成多数で議決した。

3. その他

○8月25日 市内中学校全国・関東大会出場報告会について

今年度は市内の中学校から全国大会に出場した生徒は1名のみ。成田高等学校附属中学校の生徒で、水泳競技のバタフライで出場した。この生徒は全国大会中だったため、参加せず、それ以外で、関東大会に出場した8名の生徒が出席した。相撲個人で1名（成田中）。団体で4名（久住中）。陸上競技で1名（成田中）。この生徒は1年生で、女子走り幅跳びで5メートル05cmという記録で第1位となった。他、水泳で1名、卓球で1名の生徒であった。関東大会まで出場する生徒は皆、大変謙虚で、一様に次の目標を定めており、しっかり前を向いて素晴らしいと感じた。

○8月27日 第5回市制施行60周年記念事業実行委員本部会会議について

11月1日（土）に予定されている市制施行60周年記念式典をはじめ、60周年を記念して実施された様々な行事の報告、これから実施する行事の予定などについて審議した。これからの行事としては、最も大きな行事である地域伝統芸能全国大会が11月8日（土）、9日（日）

に実施される。これには全委員さんにもご参加いただけるよう、後日案内を送付させていただく予定である。よろしくご協力いただきたい。また、世界サンボ選手権大会や、関東大学ソフトボール選手権大会等、大きな大会も控えており、これらについても随時ご連絡を申し上げます。

○9月5日 市制施行60周年記念地域貢献特別表彰審査会について

市制施行60周年を記念して過去10年間で本市の魅力を広く内外に発信するなど、本市の知名度を大きく向上させた方、又は本市のイメージアップに多大な貢献をした個人・団体に対し、市制施行60周年記念地域貢献特別表彰として顕彰し、感謝の意を表するために実施するもので、例えば、全国規模の大会で上位3位以内の成績を複数回収めた個人や団体などを表彰するもの。これらの表彰に値するものとして推薦された方々を審査した。推薦された方々はいずれも素晴らしい活躍をされた方ばかりで、表彰にふさわしいものであった。ここではその具体的な内容を公表できないが、西中学校陸上競技部女子4×100mリレーなどは、連続日本一に輝いたので文句なしの功績と言える。このような例を参照願いたい。

○9月5日 高校総体少林寺拳法競技結果報告会について

先に行われたインターハイで見事な活躍をされた成田国際高校と成田北高校の少林寺拳法部が市役所を訪問され、大会の報告をしてくれた。少林寺拳法は今大会が初めてのインターハイということもあり、かなり力を入れて取り組んだことがよくわかった。女子団体演武と組演武で優勝した成田国際高校はもちろんのこと、成田北高校の女子組演武で3位に入ったペアは、直前まで一人の選手の腰の具合が悪く、とても大会に出られる状況ではなかったとのことだが、調整し、努力し、なんとかここまでたどり着いたとのこと。報告をする選手の目に涙があふれ、その思いを強く感じさせられた瞬間だった。また、メダルこそ逃したものの、入賞することができた成田北高校の男子少林寺拳法部も、良く努力しここまできたこと、担当の鬼澤先生も感無量という様子だった。また、本大会の少林寺拳法部門の事務局責任者という立場で支えてきたこの鬼澤先生は、この大会は選手だけではなく、運営に関わった多くの高校生、そして、関係職員、さらには誠心誠意努力してくれた生涯スポーツ課職員に心から感謝したいという言葉もおっしゃっていただき、大変有り難く感じた次第である。

○9月8日 平成26年度成田市交通安全ポスター展応募作品の審査について

夏休み中の課題として子どもたちに交通安全ポスターを描いてもらっているが、各校から応募された作品を一堂に集めて、図工美術の専門家である元校長の鬼沢先生と四宮先生に審査していただいた。私はこの審査によって選ばれた特別賞候補作品の中から、教育長賞を選んだ。特別賞は、他に市長賞、市議会議長賞、成田警察署長賞、交通安全協会賞がある。自由課題であるため、応募作品は決して多いとは言えず、毎年開催していることもあり、マンネリ化も

考えられる。毎年何かしらの工夫が必要である。ポスターにこだわらなくてもいいのではない
か、目的は交通事故を減らすためなのだから。

○9月13日 成田市赤坂ふれあいセンター及び成田市男女共同参画センター開館記念式典に
ついて

ボンベルタ、アネックス館の2階にオープンした赤坂ふれあいセンター・男女共同参画セン
ターの開館式に出席した。赤坂ふれあいセンターは、これまでの老人福祉センターに代わるも
ので、規模も広げ、十分な活動ができるようになっている。また、男女共同参画センターは本
市では初めての試みで、今後どのように活用されていくか、大変興味のあるところである。ボ
ンベルタアネックス館という、立地条件に恵まれ、多くの方に利用されるものと期待している。

《教育長報告に対する主な質疑》

委 員：赤坂ふれあいセンター、男女共同参画センターについて、内容や使われ方は。

関川教育長：主に高齢者が集まって仲間づくりをする場で、話や将棋、お茶やカラオケ、大き
な会議が出来る部屋や鏡張りの部屋もあり踊りやダンスの練習もできる。年配の方々
を中心に、それぞれの趣味を生かして取り組めるような場所の提供を目的としている。
老人福祉センターが老朽化したことによる代替施設だが面積は非常に広がっている。

委 員：施設は区切られているのか。

関川教育長：大きな空間に間仕切りを配置したような構造になっているが、窓は外側にしかな
いので内側は電気をつけないと暗くなる。

委 員：利用者が自由に使えるということですね、受付はあるのか。

関川教育長：あります。部屋によっては有料のところもある。

委 員：利用状況は。

深山教育総務部長：初日の午後に行ったが、まだ、オープニング行事が続いており大変人が多く出ている。これからの利用率だが、どのように上がっていくか楽しみで、教育長報告にもあるが、旧老人福祉センターが手狭で老朽化したことと、高齢者団体の活動が活発になったことを受けて設けられたもので、1階はスポーツジムで、2階のこの場所は、かつては、寝具売り場だったところで市が借り受けて改装しが、当初より手を加えて改装したので部屋も沢山ある。どの部屋もガラス越しに活動状況が見られ、それを見てまた参加者が増えると思う。これからが本腰で、交通の便もよく初日の午後は、店舗も非常に高齢者が多く見受けられたので、官と民のいい相乗効果が出ればと思う。

関川教育長：ふれあいセンターに来て、ついでに買い物もしていただければと思う。

深山教育総務部長：センターの中で活動するのに、弁当や飲み物を買ったり配達してもらえればと思う。福祉部時代にボンベルタの担当者と話をさせていただいたが、初日には、ボンベルタの社員の方も見えていたので期待をしていると思った。

委員：公津の老人福祉センターより交通の便もいいので、利用者も非常に増えると思う。

委員：成田中学校の体育祭に出席。落ち着いていて中学生らしい姿を見せていただいた。毎年出席しているが、何年か前までは、リレーなどふざけたりしていたが、今回はふざけたりせず全員が一生懸命やっている姿が見られてとても良かった。

委員：ふれあいコンサートに参加したが、とても素晴らしい演奏で、これから60周年記念事業の地域伝統芸能大会で獅子舞などが催されるとのことですが、それらのルーツになっているのではないかと感じた。本当にゆったりとした動きと音楽で平安の昔の人はこういうものを楽しみを求めていたのかと思った。

また、西中学校の体育祭に参加した。入場行進など少し心配していたが、みんな真

剣に取り組んでいて、全員が大きな声で応援合戦に参加したり、徒競走では全員が全力で走っている姿を見させていただいた。だいぶ学校の様子も改善されてきたと感じた。午後は、図書館の30周年記念文学講座に参加しさせていただいた。講師の話の中で、アメリカのペンシルバニアのロゼット町というところで30年間血管の詰まる病気が発生していないとの話をされたが、「では、なぜ病気がないのか研究した人がいたようで、そこには、絆があると、要するに町の人々の絆でいっぱいだ」という話をされていた。人間はやはり絆で結ばれており、そういうことが生きがいとして重要だと、先程、赤坂ふれあいセンターの質問をさせていただいたが、これなども絆づくりとしてすごく重要な働きがあると思う。是非成功させて、ニュータウンは独居老人も多いと聞いているので、これらニュータウンの方や周辺の地区の方々が集まって絆づくりをしていただき、幸せな生活が営まれればと思う。ぜひ講師の話のように市の生涯学習課も絆づくりに力を入れていただければと思う。

委員：中台中学校の体育祭に参加。目立つ服装の生徒がいたが、クラスメートとは笑いながら仲良く話をしたり、そんなに仲間外れにされているような様子もなく安心した。来賓席での話題は、今回大分クラス数も減って、こじんまりとした体育祭になったが、これからも生徒が減ってもっと小さくなり、部活も減ってしまうとか学区自体に問題があるのではないかという意見が出ていた。その日の午後は、図書館の文学講座に出席した。事前に講師の本を読んだが、本から感じられるようにやさしい先生だと感じた。北総教育事務所の次長訪問は、何校か参加したが、良かったのが平成小学校で、校長先生が先生方をよく纏めており、先生全員が明るくて前向きな印象を受けた。また、中台中が以前に比べて勢いが無いというか、学力も以前より低下しているとのことなので、もう少し変わってほしいと感じた。

それと赤坂ふれあいセンターについて、利用者の年齢制限はあるのか。

深山教育総務部長：原則、高齢者が優先だが、空いている時はそれ以外の世代の方も利用できる。

委員：中高生などは。たとえば吹奏楽部の練習とかはどうか。

深山教育総務部長：あくまでも市民活動などが対象。原則は老人福祉センターが移転拡充した
ものなので、高齢者団体については無料で利用が出来る。空いている時は一般の方も
利用できるが、公民館とは違って有料。

委員：団体でないと利用できないのか。

深山教育総務部長：パソコン教室などは個人参加だと思うが、それ以外の個人については確認
する。

委員：高齢者は何歳から。

深山教育総務部長：「老人福祉法」では65歳以上。

委員：それ以下だと高齢者として使用できないのか。

深山教育総務部長：詳細については確認して報告する。

委員長：大栄中の体育祭に参加した。いくつかの視点から拝見させていただいた。生徒が
真剣に楽しく競技をしているか、服装はどうか、先生方の指導やサポートはどうか、
先生方同士のチームワークはどうなのかなどを主眼にして見させていただいた。どの
点も非常によくやっていたが、午後の進行の場面で、先生方のサポートが
もうちょっとあってもよかったかなという点が気がかりだった。もう一つ気がかりだ
ったのは、過呼吸で倒れる生徒が3名ほどおり、調べてみると生真面目な生徒がなり
やすく、特に10代、20代前半の女性に多いとのことで、パニック障害とまでいっ
たら失礼かもしれないが、そのような状況だと先生から聞いたが、これは大栄中だけ
の問題なのか気がかりだった。過呼吸になった場合には養護の先生が速やかに対処し

ていただきたい。

委員：西中学校の管理主事訪問に同行し、校長先生の思いを聞かせていただいた。入学式にも参加したので気になっていたが、毎日の先生方の努力の積み重ねや学校の取組みでいろいろな細かい点まで取り組まれていて、少しずつ変わっていると感じた。教室のロッカーも、午後に行った中学校と比べてもきちんとしていると感じたが、授業中に他の集団と離れたり、授業を受けない男子の集団がいるなど、まだまだ課題はあるようで、毎日毎日、先生方が努力されているということがよく見えた。

小学校は、平成小学校に行き、平成小学校は、英語に限っていうと、とても楽しそうだったが、その後、中学に行くと授業が繋がっているのかという感じを受けた。成田市では小中連携教育に取り組んでいると思うが、小学校から中学校への英語科の流れは上手く機能しているのかと思った。英語科だけなのだが、小中連携の取組みはしていても学校間の連携がうまくいっていないのか、それとも学校間だけでは出来ないの、教育委員会がもっと関わって枠組み作りなどをした方がいいのかなど少し不安に感じた。

大竹教育指導課長：小学校の英語教育を中学校にどう繋げていくのか課題になっていることは確かで、ご覧いただいた授業は、たぶん教育課程に定められている4時間の授業だと思う。現行では、各学年15時間、18時間プラスして実施をしている英語の時間があるが、この時間はコミュニケーションを中心とした授業という形で実施している。小学校と中学校で教育委員会がレessonプログラムを作成して実施しているのはその部分になる。その部分での連携は、図れてきている部分もあるが、それも十分とは思っていない。というのは、中学校がかつて教育課程に35時間を上乗せした時に作ったプログラムを、18時間になった時に圧縮をしているので、それが必ずしも十分に機能していない部分はあるかと思う。4時間の教科書を使って行う正規の英語の時間についてもゲーム等様々な要素を取り入れてやっはいるが、やはり知識の定着という部分とコミュニケーションを中心とした活動的な部分とが、必ずしも小学校から上手く中学校に連携できているとは、なっていない部分があり、この部分は英語教育を

進めていく点でも教育指導課としても課題だと思っているし、検討会でも様々な意見をいただいている。

委員：関連して意見を言わせていただくと、中台中学校に在籍した時に、千葉県の研究校の指定を受けて小中連携教育を実施しが、小学校と中学校の間には、壁があり小中連携がうまくいかない。その壁というのは小学校では楽しい英語の授業をするが、そこから抜け出すことが出来ない。中学校は受験があるので、知識、理解が中心になってしまう。せっかく指定校として研究をやるのだから、小学校と中学校のパイプを上手く繋いでほしいということを申ししたが、どうしても小学校は英語の授業は、楽しい授業ということで中学校の授業と繋がらない。その時の座長が「英語教育については、小学校と中学校の連携について問題があるので、そのための研究をしていくのがこの会議の役割ではないか」と言ったら「全くその通りだ」とおっしゃったが、結局その部分については話し合いがされず、授業の見学で終わってしまった。これでは、まずいと感じたが、自分がその後異動になり、その後の経過は不明だが、小中連携を上手く進めていく研究をぜひ教育委員会でも実施していただきたいと思う。小学校からスムーズに中学校に移れば、小学校で楽しくやってきた英語が中学校でも楽しく繋がれば、将来社会の中で活躍できるグローバルな人員が育つと思う。

3.議 事

(1) 議 案

(議案第1号は、成田市教育委員会会議規則により非公開とする議決)

<これより非公開>

議案第1号 成田市心身障害児教育支援委員会委員の委嘱について

《審議結果》

承 認

<非公開を解く>

議案第2号 平成26年度成田市教育委員会功労彰・功績彰表彰者（案）について

【伊藤教育総務課長 議案資料に基づき説明】

（要旨）

教育委員会表彰については、成田市教育委員会教育功労者表彰規則に基づき、本市における教育、学術又は文化の振興に関し、特に功績の顕著であった個人又は団体に対して教育委員会が表彰を行うもので、表彰者の決定は、同規則第10条により教育委員会の各課長より報告を受けた表彰者について、同規則第9条により教育委員会の議決を経て決定することとなっている。今年度は、功労彰4名、功績彰8名10団体の計18、合わせまして合計22の個人・団体に対して表彰を予定している。

《議案第2号に関する主な質疑》

質疑なし

《審議結果》

承 認

（2）報告事項

報告第1号 第2次成田市生涯学習推進計画及び第2次成田市生涯スポーツマスタープラン進捗状況等報告書について

【秋山生涯学習課長 資料に基づき報告】

（要旨）

生涯学習は市が行う全ての事業分野にまたがることから、市長を本部長とし、庁内各部長で構成する「成田市生涯学習推進本部」を組織し、事業推進を図っている。また、各種団体の代表者等からなる「生涯学習推進協議会」の意見を伺いながら進めることとしていることから、去る9月12日に生涯学習推進協議会を開催し、審議・了承をいただいたことから本日報告させていただく。最初に生涯学習推進計画について、6ページで、計画の期間を平成23年度か

ら平成32年度までの10年間と定め、『ゆたかな自然と歴史のもと“国際市民”を育むまち』を基本理念とし、3つの基本方針である「だれもが主役」「いろいろな学習」「みんなで協働」を体系の柱としている。7ページ、施策の体系と主要施策を3つの基本方針毎に3つ、4つ、3つ合計10の主要な施策を定め、それぞれの分野で事業展開を図ることとしている。施策の体系に沿って、事業展開をより効果的に推進するため、5つの重点施策を定め、そして、これら事業の進捗や達成状況を検証するため、次の4つの数値目標を定めている。この数値目標に対する進捗状況に対して、意見等をいただいた。数値目標は、1.生涯学習活動を行っている市民の割合は80%、2.公民館の市民一人あたりの年間利用回数は3回、3.図書館の市民一人あたりの年間貸出冊数を12冊、4.ボランティア等登録者数を3,000人としている。これらを市の各部門で展開している事業を生涯学習を推進する観点から基本計画の体系別に集計し、水色の紙に続く1ページから183の事業について集計している。これらを37ページ以降で6つの指標区別に集計し直し、まとめたものが32ページからで、数値目標Ⅰの生涯学習を行っている市民の割合については、計画を策定した段階では、5年を目安にアンケート調査を実施して検証していくになっているので、それまで各年度では事業ごとの指標を設定し、進捗状況を把握していくこととした。まず1の「諸集会等に関する事業」については、参加者数が減となっているが、24年度には臨時的事業が多かったこと、25年度は天候に恵まれなかったこと等により減少となっている。2の「生涯学習情報の充実に関する事業」については、「インターネットのアクセス」等は全体に増加しているが、時代の流れというか、紙ベースでの情報誌の発行は限定されがちとなっているので、生涯学習課で発行の「生涯学習ガイド」も減少している。26年度からは、「いきいきなりた生涯学習」と「生涯学習ガイド」を一つにして発行部数は減るが、内容の充実を図っていく。また、「まなび&ボランティアサイト」は24年度に業者変更によりアクセスのカウント方法が変わったことにより減少したが、25年度及び26年度上半期には、着実に増加している。3の「生涯学習団体、ボランティア等の登録者の促進に関する事業」については、公民館サークル会員の高齢化により活動が出来なくなったことや、ボランティアセンターの会員数の減少によるもの等で、なかなか増加に転ずるのは難しい状況にある。4の「各種相談体制の充実に関する事業」については、教育委員会事業以外の障害者相談、家庭児童相談室等が増加したことによるもの。5の「生涯学習施設の整備・運営等の充実に関する事業」については、改修工事を行った国際文化会館の利用者数の減少や、平成23・24年度は行政関係団体の利用が多かった公民館利用者数の減少によるもの。6の「その他（生涯学習関係イベント等）の事業」については、各種イベントは、参加者は増加している。また、青少年の作品点等出品数は、「選挙啓発作品展」への出品点数の減少によるもの。次の数値目標Ⅱは、公民館の市民一人当たりの年間利用回数ということで、今後については、講

座の充実やサークルの育成、より一層の情報発信等を行いたいと考えている。数値目標のⅢの「図書館の市民一人あたりの年間貸出冊数」については、目標値については、計画期間における目標を12冊としているが、昨年7月に開館した公津の杜分館については、今後も、利用者の増加が見込めると考えており、H26年度の最終見込みについては、貸出件数は約140万点に近づくものと見ている。今後とも、近隣小学校との連携や働きかけにより、利用者の増加を図っていききたい。数値目標のⅣのボランティアの登録者数については、目標3,000人に対し1,178人と厳しい状況。ボランティア登録数は、インターネット上において生涯学習に関する様々な情報提供を行う場である「まなび&ボランティア」サイトでの講師・人材として登録いただいている方の数だが、市民と行政、市民と市民との交流の窓口でもあり、市民の生涯学習への意識を高め、地域の活性化につながることから指標として数値目標を定めている。しかし、実体のない登録者などの精査を行い、結果として人数が減少となったが、登録者の増加に向けて、生涯学習講座の修了式や生涯大学院の卒業式でチラシを配布し、登録の呼びかけをしている。

次に、「第2次成田市生涯スポーツマスタープラン」については、「スポーツでいきいき健康まちづくり」を基本理念とし、「スポーツで健康になろう」をはじめ4つの目標を定めている。13ページは、このプランの目標を達成するために、特に推進を強化する事業を「スポーツイベントの誘致・開催」など6つ選定し、重点事業に位置づけている。また、このプランの推進にあたっては、進捗状況や成果を計るために、4つの数値目標を設定している。週1回以上のスポーツ実施率を50%、児童生徒の運動能力証合格率を30%、スポーツイベント参加率を50%、総合型地域スポーツクラブの数を1クラブ以上とすることを目標としている。24ページから31ページは、庁内各課の44事業を体系別に区分し、事業の把握と、25年度の実績を調査したもの。44ページからは指標ごとに区分した実績となっている。35ページからそれらの計画の数値目標と事業実績を掲載している。数値目標Ⅰ、週1回以上のスポーツ実施率と、数値目標Ⅲ、スポーツイベントの参加率については、各年度では、指標ごとに事業の進捗状況を把握していくこととし、指標ごとにまとめた。主なものとして、指標1「諸集会等」に関する事業については、9事業があり、そのうちスポーツ事業への参加者として3事業の実績をまとめた。参加者延べ12,017人で、平成24年度と比較し、増となっているが、これは誘致大会である女子バスケットボール日本リーグを25年度は誘致開催することが出来、また、第1回スポーツフェスティバル開催結果の反省点から、第2回大会に向かってイベント内容、プログラム等を検証した結果、参加者が増となり、この2つの事業で25年度は約2,000人増加したことなどによるもの。指標2「情報の充実」に関する事業のスポーツシステム予約申請件数は減少となっているが、これは「中台体育館の屋根・外壁」、「放送設備改修工事」、

「B&G体育館アリーナのコートライン改修工事」で閉鎖期間があったことが、主な原因と考
えている。指標3「生涯学習関係団体、ボランティア等の登録者の促進に関する事業」は、ス
ポーツの推進を図る団体、健康づくりの普及活動を図るボランティア団体、スポーツリーダー
バンクともほぼ横ばいになっている。指標4「各種相談体制の充実」に関する事業は、生涯
スポーツ活動を行っていくうえで、市民に対して適切なアドバイスができる相談体制として、
健康ちば21推進事業の「成人高齢者体力・運動能力調査」の参加者数は51人だった。自分
自身の体力年齢や、現状を知ってもらうとともに、測定結果に基づく日常取り入れるべき運動
のアドバイスなどを行っていることから、もっと多くの人に参加いただけるよう、市民にPR
して健康づくりに役立てていただきたいと考える。指標5の「施設の整備・運営等の充実」に
関する事業については、運動公園等スポーツ施設利用者延べ人数については、24年度から
38,963人ほど増加しているが、この理由としては、中台運動公園球技場に夜間照明設備
を設置したこと、また、利用時間帯の細分化によるものと考えている。指標6の「その他」の
事業は、生涯スポーツの推進に関する事業として、教育委員会が委嘱するスポーツ推進委員の
活動事業数21件、これは共催や、市行事の支援事業等も含んでいる。また、教育委員会表彰
件数30件、競技力向上事業国内外遠征激励費助成件数は33件となっている。この遠征激励
費助成は年によってばらつきがあるが、昨年とはとても多く、多くの方にご活躍をいただいたこ
とと考えている。数値目標のⅡとⅣについては、計画の目標値に対する実績を数値で表してい
る。数値目標Ⅱの児童生徒の運動能力証合格率は、26.3%、若干下がっているが、全国的
に女子の運動時間が減っていることも要因の一つと思われる。数値目標Ⅳの総合型地域スポー
ツクラブについては、今現在は設立されていないが、クラブ設立に関する検討会を25年度は
5回開催し、設立に向けて取り組んでいる。以上の報告をしたところ、協議会委員からは、数
値目標について、行政としてはどうしても集客数に目が行きがちだが、人口が増えない、又高
齢化の進む現在では、内容が大切だと思う。どれだけ満足したかという満足度はなかなか数値
で出て来ないが、そこが重要だとの意見を頂いた。アンケートの評価を3つから4つにする等
工夫が必要ではないか、数値を追いかけていくことは、施設側としては大事なことも知れな
いが、数値の中身が大事であり、数値の捉え方が今後の課題といえる。参加人数だけを問題に
するのではなく、適正な参加人数を数値目標として挙げておく必要があるような気がする等、
数値目標に関する意見がいくつかあった。

今年度、中間のアンケートを実施することになっているので、結果をみて検証して行きたい
と思う。その他、中・高・大学生が参加対象の事業を増やしてほしい。中学校の部活動に、
外部指導者を取り入れる等して活性化してほしい等の意見があった。

《報告第1号に関する主な質疑》

委員：生涯学習活動の場の充実ということで、市民が大勢参加しているが、事業によって参加者が定数の限度までなっている事業はないか。

秋山生涯学習課長：明治大学の成田社会人大学などたくさんの方に応募いただき会場が一杯になるまで受講していただいているが、抽選になってしまうということもある。

委員：もっと勉強したいという市民が大勢いるが、会場の規模の問題で抽選になっているということですね、

秋山生涯学習課長：なるべく多くの方に受講していただけるよう工夫はしているが、抽選にせざるを得ないこともある。

委員：他にはないか。

秋山生涯学習課長：生涯大学院についても3年間で受講していただいているが、ほぼ定員になっている。応募者が増えることはありがたいが、会場の収容力の問題があるので、これ以上受講者を増やすことは難しいと考える。

報告第2号 第3回成田スポーツフェスティバルの開催について

【大矢生涯スポーツ課長 資料に基づき報告】

(要旨)

10月11日、土曜日に中台運動公園陸上競技場にて9時より開催する。雨天時には体育館アリーナで一部種目を実施。種目は、団体対抗種目と個人種目と2つの種目で行い、団体種目は、綱引きが12人以内、玉入れは、20人以内、8の字跳びについては、12人以上の参加

で実施する。表彰については、各種目3位まで表彰を行うとともに、3種目の総合得点の1位を総合優勝とし、6位まで表彰する。次に個別種目については、リレーは、小学生・一般で4部門実施。また、当日申込でも参加できる競技を4種目行う。「ウォーキング」や就学前児童を対象とした「カイ君と走ろう」、また、パン食い競争は、「成田ソラあんぱん」を使い行う。ニュースポーツ体験については、レクリエーション協会の協力を得て、誰でもが楽しめる種目を行い、来場者に体験していただくプログラムになる。プログラム日程については、9時30分に綱引きが始まり、14時45分の綱引き決勝後、閉会式を行う予定。なお、11時45分から行うお昼のアトラクションとして、「ゆるキャラ20m走」、「お笑いライブ」、「お楽しみ抽選会」、「タグ取り鬼ごっこ」を行う。スポーツフェスティバルを盛り上げるゲストとして、13縣市町、1団体のキャラクター、16体、また、お笑い芸人3名、カイ君に参加していただき会場を盛り上げていく。9月17日に開催したスポーツフェスティバル実行委員会で、大会役員につきましては、大会会長が小泉市長、副会長として、上田市議会議長、関川教育長が就任。なお、当日の運営は、教育委員会各課職員をはじめとする各種スポーツ団体等の協力により、約230人で運営する。スポーツフェスティバルの参加申込状況については、事前申し込者で、延べ2,427人の申込みが有、当日参加種目を含めて、延べ2,700人程度の各種目等への参加が見込まれる。

《報告第2号に関する主な質疑》

委員：昨年、時間通りに進行しなかったが、今年は何か工夫はされたか。

大矢生涯スポーツ課長：昨年は綱引きに時間がかかったので、反省会で改善策を検討して準備をしている。

報告第3号 中台運動公園体育館及び大谷津運動公園野球場の一時閉鎖について

【大矢生涯スポーツ課長 資料に基づき報告】

(要旨)

中台運動公園体育館の一時閉鎖についてが、今回の休館は、本体育館の空調工事によるもの。緑色の部分が、体育館の既存空調設備を更新する部分で、赤の斜線部分が、新たに空調設備の設置工事を行う部分。全体の工事期間は、平成26年12月から平成27年7月までの8ヶ月間。なるべく施設を利用できるように、工事の工程を調整し、平成27年2月から4月までは、アリーナ・ロビーを除く施設を休館とし、5月から7月までは、全館休館として、工事を進める。大谷津運動公園野球場の一時閉鎖については、大谷津運動公園野球場は、一般国道464号北千葉道路工事にかかる大谷津トンネル工事に伴い、平成26年10月1日から平成30年3月31日までの期間（3年6ヶ月）の閉鎖を予定している。工事に伴う影響箇所は、「表3」の緑色の部分が今回の工事の影響する区域で、赤色の部分が、函渠、いわゆるトンネル部分になる。工事に伴い、外野エリア及び観覧席の一部を一時撤去し、トンネル工事施工後に復旧する。なお、公園内のテニスコート、水泳プール、多目的広場については、通常通り運営していく。

《報告第3号に関する主な質疑》

委員 長：体育館の休館期間が今年の12月から翌年7月まで8か月あるが、その間、例えば12月とか一部使える所はあるのか。

大矢生涯スポーツ課長：12月については、通常通り使用できる。工事は、工事業者が決まり準備期間があるので、直接工事が始まるのは、来年の2月から。2月から4月はアリーナを除いた施設が休館で、5月から7月は電気工事が伴うので全館休館になる。

委員 長：大谷津野球場は、外野席は撤去するのか。

大矢生涯スポーツ課長：一部撤去して、トンネル工事を施工した後、元に戻す。

委員 長：撤去費は国交省が負担するのか。

大矢生涯スポーツ課長：そのようになる。

委員長：その間、球場が使えないわけだが、その間、補償は。

大矢生涯スポーツ課長：補償はない。

委員：体育館について、既存の空調設備の更新または新規設置ということだが、冷暖房が入るのか。

大矢生涯スポーツ課長：アリーナを除いて冷暖房が入る。

委員：使い勝手が良くなるが、アリーナは、まだ先か。

大矢生涯スポーツ課長：今後の課題になる。他の体育館より規模が大きいのので難しい点がある。

委員：インターハイの時、仮設の空調が入っていたが、結構涼しかったのだが。

大矢生涯スポーツ課長：競技面は、柔道については、多くのお客さんが入り、ちょっと暑かった。少林寺拳法は、ちょうどいい温度だった。温度調節はなかなか難しい。

委員：大谷津球場は電車が通っているが、別の所に道路を通すのか。

大矢生涯スポーツ課長：電車は高架だが、道路はトンネルで通す。

報告第4号 成田市就学援助費支給規則の一部改正について

【柳鶴学務課長 資料に基づき報告】

(要旨)

7月の教育委員会議で、消費税増税等に伴う就学援助費の増額を図るために「成田市就学援助費支給規則の一部改正について」提案をし承認をいただいた。その後庁議報告をしたところ、規則改正の主旨をご理解いただき、その上で、国の基準の2分の1を援助しているクラブ活動費と、これまで援助対象としていない費目のPTA会費・生徒会費について、学校はどのように対応しているか。子どもや保護者は困っていないのか。また近隣他市のクラブ活動費、PTA会費、生徒会費の対応状況を調査して再検討するようにとのご意見をいただいた。これらの意見を踏まえて調査した結果は、資料5ページ6ページにあるとおり。

就学援助費の制度は、「学校教育法第19条」の規定により、経済的な理由によって就学が困難と認められる児童生徒の保護者に対して援助するもので、生活保護の決定を受けているときは要保護児童生徒、市で定める基準により要保護児童生徒に準ずると認められるときは準要保護児童生徒と認定し、それぞれ就学援助費を支給する。このことから、改めて事務局で検討し、クラブ活動費を、要保護児童生徒援助費補助金の国庫補助予算単価と同額の小学校2、710円、中学校29、600円に増額し、新たに生徒会費・PTA会費を援助費目に追加し、これらも国庫補助予算単価と同額にして、生徒会費を小学校4、570円、中学校5、450円、PTA会費を小学校3、380円、中学校4、190円を限度額として支給できるようにした改正案を、9月17日の庁議に再提案をし承認された。なお、この改正規則は9月30日に公布し、4月1日に遡及適用する。

《報告第4号に関する主な質疑》

委員長：クラブ活動費、生徒会費、PTA会費について市から支払っていただけることは非常にうれしい。生徒会費とPTA会費についてだが、例えば大栄中は、PTA会費は、年額6、000円で、市が支払うのは、上限の4、190円で不足分が出るが、保護者負担になるのか。

柳鶴学務課長：本来は各家庭で負担していただくが、今までは各学校では免除するという流れになっていたので、教育委員会としては上限額以上の差額については免除するよう各学校に配慮をお願いしたい。

委員：玉造中のPTA会費は、年4、800円で免除規定がないので、差額は自己負担と

いうことになるのか。

柳鶴学務課長：そうなる。

委 員：そのご家庭から徴収するということになるのか。

柳鶴学務課長：家庭数で負担するという事になっているので、差額にご協力を頂くという考え方になる。ただ、支払いが難しい家庭には、あえて督促するようなことはしない。

委 員：これで、負担はほとんどなくなり、いいことだと思う。

(3) その他

- ・ふれあいコンサート・国際市民フェスティバルの開催について（生涯学習課長）
- ・リサイクルフェアの開催について（図書館長）

4.委員長閉会宣言